



WASEDA ROPE

H.29.2.28

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

熊本県市民フォーラム 報告書

2017（平成29）年2月24日（金）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」熊本県市民フォーラムが開催されました。オリンピックの荻原次晴氏（スキー・ノルディック複合）、パラリンピアンの方の廣瀬誠氏（柔道）をシンポジストとしてお招きし、熊本大学の中川保敬教授がコーディネーターを務められました。当日は、熊本県内学校関係者、熊本県体育協会加盟競技団体関係者、熊本県内総合型地域スポーツクラブ関係者、障害者スポーツ関係者の方々等にご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

【開催概要】

日時：2017（平成29）年2月24日（金）13時30分～16時50分

会場：ホテル熊本テルサ テルサホール

主催：早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター、くまもと元気アップアソシエイツオー
リパラムーブメントー

参加者：約120名

プログラム：

13:30～13:45 開会行事

13:45～14:45 講演① 荻原 次晴氏 「次に晴ればそれでいい」

14:45～14:55 休憩

14:55～15:55 講演② 廣瀬 誠氏 「パラリンピアンとして伝えたいこと」

15:55～16:10 休憩

16:10～16:45 シンポジウム テーマ「熊本からオリンピック・パラリンピックムーブメント」

16:45～16:50 閉会

開会行事では、熊本県教育委員会教育指導局体育保健課審議員の松本幸寛氏より主催者挨拶があり、続いて本センター長友添秀則より、本事業の概要が説明されました。



松本幸寛 氏



本センター長 友添秀則

講演①では、長野オリンピック（1998年）スキー・ノルディック複合に出場された荻原次晴氏より、「次に晴ればそれでいい」という題目でご講演いただきました。荻原氏は、アルペールビル（1992年）・リレハンメル（1994年）オリンピックで2大会連続の金メダルを獲得した双子の兄、健司氏と見間違えられることで、

サイン攻めに合うなどの苦勞をされたことについてお話しされました。金メダリストの兄とオリンピックに出場できない自分とを比較してしまい悩むこともあったそうです。しかし、その苦惱を乗り越えるために懸命に努力したため、長野オリンピック（1998年）への出場を果たすことができたといいます。そして、オリンピックへの出場を通して、健司氏や両親をはじめとする多くの人たちの支えに対して感謝の気持ちをもつことができるようになったとお話しされ、講演をまとめられました。

講演②では、パラリンピックの柔道競技に4大会連続で（アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロ）出場された廣瀬誠氏より、「パラリンピアンとして伝えたいこと」という題目でご講演いただきました。廣瀬さんは、自身がリオデジャネイロパラリンピック（2016年）で獲得した銀メダルを掲げながら、パラリンピックのメダルには、鈴が入っており、目が見えない人への配慮がなされていることについてお話しされました。また、ヘレン・ケラーの「障害は不便だが不幸ではない」という言葉を紹介し、日常にあふれている「当たり前」に感謝することの大切さについてお話しをいただきました。



荻原次晴 氏



廣瀬誠 氏

お二方の講演後には、再度、登壇いただき、熊本大学の中川保敬氏がコーディネーターを務め、「熊本からオリンピック・パラリンピックムーブメント」というテーマでシンポジウムが行われました。東京オリンピック・パラリンピックに向けて熊本で何ができるのかについて深く議論する場となりました。



シンポジウムの様子



中川保敬 氏



花束贈呈



集合写真